

令和3年度第1回呉市教科用図書（中学校）選定委員会 会議録

日時	令和3年6月22日（火）14:30～16:00			
場所	呉信用金庫ホール（呉市文化ホール）展示室1・2			
参加者	呉市立中学校長会長	池田 時雄（昭和北中）		
	保護者代表	山本 浩司 脇原 園美		
選定委員会	学識経験者	吉長 成恭		
	校長	馬屋原 美智子（宮原中）	村井 眞司（白岳中）	
		藤原 敏宏（東畑中）	松尾 賢徳（川尻中）	
		柿林 浩彦（蒲刈中）	小林 浩樹（和庄中）	
		畑尻 佳括（明德中）	工藤 孝之（両城中）	
		松田 光弘（警固屋中）	湊 和昭（阿賀中）	
		平田 洋一（仁方中）	石原 幹生（音戸中）	
		教育部長	坂田 恭一	
		学校教育課長	安部 はずみ	
	学校安全課長	畠藤 晃		
教育委員会事務局	学校教育課課長補佐	蒲原 尚博		
	学校安全課課長補佐	伊藤 賀世		
	学校教育課主査	中村 友美		
	学校教育課主査	久保 由佳利		
	学校教育課主任指導主事	藤井 眞實		
	傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 佐々木 元（教育委員） 小谷 眞喜子（教育委員） 吉中 由美子（教育委員）		
	内容	1 令和4年度使用教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の採択の手順及び選定委員会の任務等について 2 議事 （1）委員長及び副委員長選出 （2）教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の調査・研究の観点等について		

委員長選出までの司会を藤井主任指導主事が行うこととし、委員会は定刻に始まった。

◎ 呉市教育委員会坂田教育部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・選定委員の役割について
- ・情報の公開について

1 令和4年度使用教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の採択の手順及び選定委員会の任務等について、資料に基づき、藤井主任指導主事が説明を行った。

2 議事

**（1）委員長及び副委員長選出**

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局から中学校長会長の池田校長を委員長に、保護者代表の山本様を副委員長に推薦し、承認された。

**（2）教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の調査・研究の観点等について**

司会を委員長に交代し、教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の調査・研究の観点等についての議事に入った。

◎ 事務局の説明（5つの観点について）

蒲原課長補佐が、調査・研究委員会に示す中学校「社会（歴史的分野）」の観点について、広島県教育委員会が定めた「令和4年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について」に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとすると説明した。

◎ 5つの観点についての質疑・応答

なし

◎ 社会（歴史的分野）の説明（調査・研究の視点と方法について）

村井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会（歴史的分野）】」（案）に基づき、説明を行った。

◎ 社会（歴史的分野）についての質疑・応答・意見交流

・柿林校長

観点・視点・方法について説明があったとおりで異議はないが、確認する。今回の調査・研究委員会では、昨年度、新たに国の検定に合格したのは自由社だけだから、自由社のみ調べればよいということではよいのか。

・村井校長

新たに、自由社を調べてもらえばよいと考える。他の7者は、昨年度すでに綿密な調査・研究をしているわけだから、それでよいと思っている。他の方は、どう思われるか。

・藤原校長

手元に令和2年7月28日付けの歴史的分野の調査・研究報告書がある。昨年度、調査・研究報告をしっかりとってもらっているし、1年しか経っていないわけだから、教科書が根本的に変わっているということはないと思っている。ただし、報告書の記載について確かめておく必要があると思う。自由社については、調査・研究を全くしていないわけだから、観点・視点・方法に則って、昨年度と同じように、他の発行者と同じように、調査・研究をしていかないとけないと思う。

・池田校長

国の通知にもあったが、採択替えを行うか否かは、採択権者の判断によるべきものであること、とある。そして、その際、都道府県教育委員会において行う、新たに発行されることになった図書についての調査・研究の結果、要は、この県の選定資料になると思うが、この選定資料のほか、令和2年度における採択の理由や検討の経緯及び内容等を踏まえて判断することも考えられると、示されている。だから、昨年度作成した、調査・研究報告書や総合所見を参考にしながら、自由社の調査・研究をしっかりとするというで、よいのではないか。

・工藤校長

それでよいと思う。先ほど、村井校長から提案があった観点・視点・方法に沿って自由社の教科書をしっかりと調べてもらって、今年度、新たに自由社の調査・研究報告書を作ってもらおうということではよいと思う。

・松田校長

私もそれでよいと思う。昨年度、採択事務で作成した7者の調査・研究報告書は、すでにあるわけだから、原案どおり、昨年度と同じ観点・視点・方法で自由社を調査・研究して、比較、検討をするということではよいと思う。

・池田校長

一度整理する。

観点・視点・方法については、原案どおりでよいということではよいのか。

・山本保護者代表

私も、観点・視点・方法については、原案どおりでよいと思う。昨年度、採択事務をきちんと行ってきた中で、現在、東京書籍を採択して使っている。実際、学校現場で今回採択替えになった場合は、教える先生も教わる生徒も多分混乱するのではないかと心配している。

・池田校長

御心配やお考えはよく分かる。呉市の生徒にとって最適な教科書を選ぶ責任があるということ

だと思うので、採択替えをするかどうかは、教育委員会会議で決定されることだと思うが、我々としては、正しく判断してもらうために、新たに発行されることになった教科書を、調査・研究することが必要だということだと思う。

・山本代表

分かった。選定委員長が言われたようなことを、調査・研究委員の皆さんにもきちんと伝えてもらいたいと思う。

・村井校長

分かった。調査・研究委員会に伝えるのは、私の役目なので、観点・視点・方法について説明するだけでなく、今あったような内容も伝える。

・池田校長

では、観点・視点・方法については、原案どおりでよいとの考えが多いようだが、その他御意見等はないか。

・藤原校長

この後の具体的なイメージになるのだが、村井校長先生が調査・研究委員会で説明して調査・研究がスタートする。7者については、この調査・研究報告書があるが、内容を確認しておいてもらいたい。自由社を調査・研究してもらうのだが、これとは別様のものがもう1冊出てくるというイメージでよいか。

一方、総合所見一覧は8者が一度に比較できるような一覧表にしなければならないと思う。自由社だけ別様という訳にはいかないかなと思っている。8者が比較できるような一覧にまとめていただけるというイメージでよいか。

・村井校長

総合所見一覧については、お手元の令和2年度に作成した7者の総合所見の右列に、一列設けて自由社を追記したものを、本年度作成する総合所見としてはどうかと考えていたが、よいだろうか。

・藤原校長

この総合所見一覧に自由社を付け加えて、8者の一覧表ができるというイメージでよいのだが、今、村井校長先生は、自由社が一番後から出てきたということで、右端の学び舎の横のところに付けるという説明をされた。今日の選定委員会の資料の4ページに教科書見本の種類の歴史的分野を見ていくと、8者並んでいるが、自由社は6番目に位置しているので、この順番でいくか、それとも最後に出てきたから右端に付けるか、考えなければいけないと思っている。いかがか。

・池田校長

総合所見のところに自由社を追記するということだが、その順番は総合所見の一番右端に自由社の総合所見を追記するか、あるいは資料の4ページに教科書見本の種類、出版者が並んでいるが、その社会の歴史的分野は、自由社は日本文教出版と育鵬社の間にあるので、総合所見一覧も日本文教出版と育鵬社の間に自由社の総合所見を追記したらどうかというのが藤原校長の考えだが、いかがか。

・村井校長

この教科書会社の並びというのは、文部科学省の「中学校用教科書目録」に登載されている発行者番号順ということで、特に内容に関わるものではないので、どちらにでもできると思う。

・池田校長

分かった。それでは、総合所見一覧の追記だが、資料4ページの出版者の順番どおりの方が確認しやすいと思うので、日本文教出版と育鵬社の間に自由社の教科書の総合所見を追記するというところでよろしいか。皆さん、いかがか。

異議なしの声

・その他に御意見等はないか。

なし

・池田校長

意見をまとめる。観点・視点・方法については、原案どおりとする。今回の調査・研究は、「自

由社」の調査・研究をしっかりと行っていただき、新たに自由社の調査・研究報告書を作成し、提出してもらおう。総合所見一覧は、令和2年度に作成した7者の総合所見一覧の日本語教出版と育鵬社の間に一列設けて自由社の所見を追記したものを、令和3年度作成の総合所見としたいと思う。よいか。

よいの声

◎ 全体を通して

・池田校長

それでは最後に、学識経験者の吉長先生、保護者代表の山本様、脇原様から、御意見があればお願いしたい。

・吉長教授

今回社会科ということで、観点・視点・方法については昨年のおりで自由社の採択について検討していただくことは、大変よい方向であると思う。採択に当たっては、適正かつ公正な選択の確保を維持しながらやっていただきたい。

私事にあたるが、私は歴史が非常に苦手である。大学院の時代にもう一つ大学に行こうと思って医学部を受け直した。そのときに、山川出版社の『世界史』『日本史』という高校時代の教科書を大学、大学院時代にずっと持って新たな学部挑戦した経緯がある。もう一つは、数ⅡB、数Ⅲは、中学、高校と苦手だった。即戦力がある英語と数学は、割合頑張ることができたが、医学部で歴史が何で役に立つのかよく分からなかった。しかしながら、それから現在の年になると、50年前になるが、高校のときに習った歴史が今非常に大事だなと、歴史の教育効果は一生続くものだなという気がしている。これは大事な選択の一つだなと思っている。おりしも今週、呉に最近興味がある方で茂木さんという世界史の先生が、呉に講演に来られる。歴史的観点から書かれている本に感銘して、金曜日の講演を楽しみにしている。要は、観点・視点・方法というのは当然大事なところだが、その上の社会科の目標には、「資質・能力の基礎」とか「多面的・多角的」という言葉が出ている。この際もう一度、これまで採択された昨年の教科用図書と今回の自由社について、私みたいな歴史に弱い人間にとっても何か興味がわくようなものになっているかどうか確認していただきたい。過去のを修正してくださいというわけではない。夏休みの大変忙しいときに、委員会に来て皆さんやっていただくのだが、ぜひ要望をお伝えしたい。よろしくお願いしたい。

・池田校長

適正かつ公正にこの委員会を進めるということ、中学校時代に学ばれたことが、50年近くたって実際に生きているということで、改めて社会科の目標をしっかりと確認するという、今回の調査・研究を通して改めて確認しながら呉市の子供たちの社会、歴史を学ぶ意欲をしっかりと育てていきたいという要望をいただいたので、そのことを真摯に受け止めて、また進めていきたいと思う。

全体を通して何か、質問・御意見等はないか。

なし

・池田校長

それでは、教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の観点等については、原案どおり調査・研究委員会に示すということでよろしければ、拍手をお願いします。

（拍手）

◎ 閉会

藤井主任指導主事が次回の予定等について確認して、会を終了した。

令和3年度第2回呉市教科用図書（中学校）選定委員会 会議録

日時	令和3年8月5日（木）13:00～14:00		
場所	呉市役所7階751～754会議室		
参加者	呉市立中学校長会長	池田 時雄（昭和中）	
	保護者代表	山本 浩司 脇原 園美	
選定委員会	学識経験者	吉長 成恭	
	校長	馬屋原 美智子（宮原中）	村井 眞司（白岳中）
		藤原 敏宏（東畑中）	松尾 賢徳（川尻中）
		柿林 浩彦（蒲刈中）	小林 浩樹（和庄中）
		畑尻 佳括（明徳中）	工藤 孝之（両城中）
		松田 光弘（警固屋中）	湊 和昭（阿賀中）
		平田 洋一（仁方中）	石原 幹生（音戸中）
教育委員会事務局		学校教育課長	安部 はずみ
	学校安全課長	畠藤 晃	
	学校教育課課長補佐	蒲原 尚博	
	学校安全課課長補佐	伊藤 賀世	
	学校教育課主査	中村 友美	
	学校教育課主査	久保 由佳利	
	学校教育課主任指導主事	番本 充俊	
	学校教育課指導主事	大段 美香	
	学校教育課指導主事	細川 裕香	
傍聴者	佐々木 元（教育委員） 小谷 眞喜子（教育委員） 吉中 由美子（教育委員）		
内容	1 第1回選定委員会の協議結果についての確認 2 調査・研究委員会についての報告 3 議事 ・総合所見の案について		

◎ 開会

番本主任指導主事が会を始めた。

1 第1回選定委員会の協議結果についての確認（進行：選定委員長 池田校長）

・蒲原課長補佐

まず、第1回の選定委員会の協議結果について確認する。協議内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、池田校長が、副委員長には保護者代表の山本様が選出され、決定した。

2点目の教科用図書の調査・研究の観点等について、調査・研究委員会に示す観点について「広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と提案し、議決された。

調査・研究の観点等について協議をする中で、本年度は、調査・研究報告書と総合所見一覧をどのような様式で作成するかを確認した。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな質問や意見が出され、「原案通り調査・研究委員会に示す」ということで議決された。

また、6月30日（水）に開催した第1回調査・研究委員会において、この観点等を、選定委員の村井校長から、調査・研究委員に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

## 2 調査・研究委員会についての報告（進行：選定委員長 池田校長）

### ・蒲原課長補佐

まず、本選定委員会が調査・研究を依頼している調査・研究委員会について報告する。「令和3年度第2回呉市教科用図書（中学校）選定委員会－資料－」3ページの資料2「令和4年度使用教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の採択手続について」の「3 日程」の5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員会は、6月30日（水）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択の手順及び調査・研究委員会の任務等の説明を行った。その後、選定委員の村井校長が、選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員会は、7月9日（金）に開催した。第2回では、各委員が役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、協議した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員会は、7月26日（月）に開催した。第3回では、第2回以降各担当者が加筆・修正した箇所について全体で協議して修正を加え、視点ごとに主担当と副担当で誤字・脱字等のチェックを行い、作業を完了した。

その後、7月27日（火）に、選定委員長池田校長に報告書が提出された。その報告書をもとに、社会（歴史的分野）代表の村井校長が作成したものが「令和4年度使用呉市教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）総合所見（案）」である。この後、代表の村井校長が提案する。

### ◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

## 3 議事（進行：選定委員長 池田校長）

### ・総合所見の案について

### ◎ 各自で資料を読んだ。（13時20分まで）

### ◎ 社会（歴史的分野）の説明

村井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

### ◎ 社会（歴史的分野）について質疑・応答・意見交流

#### ・石原校長

観点1, 2, 5を挙げて、説明してもらい、それぞれの特徴がよく分かり、東書により特徴が多いということも分かった。観点4の「内容の表現・表記」あたりは、あまり差異がなかったということなのか。少し説明してもらいたい。

#### ・村井校長

観点4「内容の表現・表記」においては、両者とも、本文と資料のつながりを分かりやすく示している。教科書を見ながら説明する。東書の64, 65ページ, 自由社の70, 71ページを開いてほしい。

まず、東書の64, 65ページだが、東書では、青の四角1, 2, 3, 緑の丸1, 2といったように通し番号を付け、本文と資料のつながりを分かりやすく示している。

次に自由社の70, 71ページを御覧いただきたい。自由社では、赤の丸1, 2, 3, 青の四角1, 2といったように、こちらも東書と同様に、通し番号を付け、本文と資料のつながりを分かりやすく示している。

学習内容と資料が全て番号で結び付けられており、統一感があって生徒にとって分かりやすいと考えている。

また、両者とも関連付けた絵図・写真等の総数も充実している。

#### ・藤原校長

前回の選定委員会で、自由社以外の7者も1年前に調査・研究した内容と変化がないか確認してもらいたいとお願いした。調査・研究した結果どうだったのか。総合所見一覧も変更なしということでしょうか。

・村井校長

1年前と各者特に変更はなかった。総合所見一覧もそのままよい。

・藤原校長

第5次呉市長期総合計画も策定され、それを受けて呉市教育大綱も変更された。令和3年度「呉の学校教育」のリーフレットにおいて、教科等の本質に迫る「考える授業」づくりが示され、本年度、呉市内のどの学校においても「発問の工夫」に取り組んでいる。

観点1「基礎・基本の定着」の①「1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例」では授業1時間毎の学習課題の設定について示しているが、それ以外において重要になるのが「単元を貫く問い」である。そして、その問いに対する「単元のまとめ」も重要になってくると思う。そこで、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」や観点5「言語活動の充実」において、東書と自由社の「単元を貫く問い」と「単元のまとめ」の関連性について、教えてもらいたい。

・村井校長

これも、実際に教科書を見ていただきたい。自由社は146,147ページ、東書は144,145ページを開いてほしい。

まず、自由社の146ページでは「復習問題のページ」で第3章の学習内容の基礎・基本をおさえ、147ページでは「時代の特徴を考えるページ」を位置付け、生徒が段階的に学習できるよう工夫されている。

次に東書の144,145ページでは、見開き2ページの「基礎・基本のまとめ」で第4章の学習内容の基礎・基本をおさえ、146,147のページで「まとめの活動」を位置付け、自由社と同様の工夫が見られる。

さらに、東書は、導入で設定した課題とまとめが連動しており、「問い」を軸に、課題解決的な学習の流れになっている。東書の99ページを開いてほしい。章の導入のページである。ページの右下に、第4章の探究課題として、「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」と示している。次に、この章のまとめのページである145ページの一番下の枠、「近世の探究課題を解決しよう」に、章の導入で示した探究課題を再度示し、課題を解決するよう、促している。

このような工夫から「問い」を軸に、課題解決的な学習を生徒が進めることができる。

・藤原校長

東書は、単元の最初に課題が設定されており、それを通して学習が進められ、単元の最後にまとめられているということがよく分かった。課題解決的な学習を進めていく上で、使いやすいのではないかと思った。

・小林校長

この度の学習指導要領においては、どの教科も、その教科等の特質に応じた「見方・考え方」の育成が重視されている。この「見方・考え方」が本質的な学びにつながっていくのだと思う。

社会的な見方・考え方を伸ばしていくことが必要だと思うが、そのために、特に社会科では、事象を様々な視点で考察したり、関連付けたりして探究的な学習をすることが大事である。そして、単元末には、自分たちで見いだした結果とか、習得した知識を使ってまとめたり整理したりして、新たな学びにつなげていくことが大事だと考えている。

先ほどからの、「東書」と「自由社」を比較しての説明を聞いていて、自由社も、単元のまとめの部分で基礎的なことを押さえるコーナーがあり、自分の考えをまとめるコーナーが段階的に作られているということだが、東書はさらに、いわゆる「単元を貫く問い」というものを指導者も生徒も意識して、その解決に向けた学習を進めやすいということだと改めて思った。

・脇原保護者代表

実際、今年度から歴史的分野は、東書の教科書を使って授業をしておられる。先程の説明を聞くと東書の方に、よい特徴が多いとのことだが、この度、調査・研究委員会の中で、東書と自由社の特徴を比べてみた時に、東書のこういう点がよいといった声は出ていないのか。あれば教えてほしい。

・村井校長

調査・研究委員会の代表の高野校長と連携する際に聞いたことだが、東書の使いやすい点としては、観点1「基礎・基本の定着」の特徴で出ていた、学習課題に対応した2段階の学習活動が示されているということである。これは、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」、観点5「言語活動の充実」とも関連するが、生徒の思考を促すしかけがあり、継続的に課題を追究したり解決したりして考察を深めていくような学習を展開しやすいといった声が出ていたと聞いている。

- ・山本保護者代表

東書に決まっているものを改めて調査・研究するというのはいかがかという意見もあるかもしれないが、検定を受けた自由社の教科書を含めて調査・研究し、実際に使用する生徒にどれが適しているかという視点で選定をしてもらったと思っている。今の中学2年生から高校入試も変わってくる。生徒が主体的に学習に取り組み、積極的に意見を出せるような授業を行うなど、今後も子供たちのために支援をお願いしたい。

- ・吉長教授

前回に引き続き、調査・研究を緻密にしてもらっている。東書を使用して授業をしている中、自由社も含めて客観的に判断するために、丁寧に調査・研究してあると思う。本当にありがたい。

- ◎ 総合所見の案を基に、教育長に報告することについて確認

- ・池田校長

それでは、教科用図書（中学校「社会（歴史的分野）」）の総合所見については、原案どおり教育長に報告するというのでよろしければ、拍手をお願いします。

教育長に報告することについて、承認を得る。

- ◎ 閉会

番本主任指導主事が会を終了した。